

13. 未利用海藻増産試験

担当：宮永貴幸（養殖・漁場環境室）

実施期間：平成27～29年度末（平成27年度予算額：1,947千円）

目的：

未利用海藻ほりおこし調査（平成24～26年度）によって発掘したアカモク、ホンダワラ、フサイワズタ、セイヨウハバノリの増養殖技術に関する知見を収集し、漁業者等が取り組む6次産業化（海版葉っぱビジネス）を創出、拡大するための技術的支援を行う。

取り組みの成果：

1 調査内容

1) アカモク増殖試験

平成26年3月に酒津で実施した幹縄スポアバック方式による増殖試験の追跡調査を4月に実施した。また、泊地区で同方式による増殖試験を5月に実施した。

2) ホンダワラ増殖試験

平成27年3月に御崎漁港及び逢坂港で実施した幹縄スポアバック方式による増殖試験の追跡調査を10月に実施した。

3) フサイワズタ増殖試験

平成27年5～8月に泊地区石脇港突堤付近の海域において、フサイワズタの母藻設置（トリカルネット方式）を実施した。

4) セイヨウハバノリの漁港内養殖試験

平成27年2月に遊走子を採集及び拡大培養し、10月に塩ビパイプ及び種糸を用いて採苗したのち、泊漁港内で垂下式の養殖試験を実施した。

2 結果の概要

1) アカモク増殖試験

平成26年に酒津で実施した幹縄スポアバック方式による増殖試験では、幹縄及びその周辺に多くのアカモクが生育し、増殖効果は高いものと判断された（図1）。

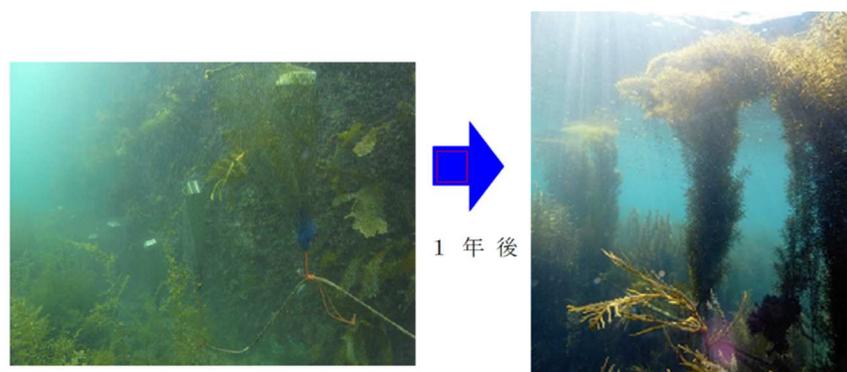


図1 酒津におけるスポアバック設置（右：2014.3.27）及び一年後（左：2015.4.27）の状況

また、本年度は泊地区でも同方式による増殖試験を実施し、周辺域で多くの幼体の発生が確認された（図2）。



幹縄スポアバッグ設置（2015. 5. 11）



周辺に幼体が繁茂（2015. 9. 14）

図2 泊漁港周辺での幹縄スポアバッグ方式によるアカモク増殖試験

2) ホンダワラ増殖試験

平成27年3月に逢坂港に設置した幹縄スポアバック方式による増殖試験では、10月に実施した追跡調査で設置場所の周辺に多くのホンダワラ幼体の生育が確認された（図3）。



幹縄スポアバッグ設置（2015. 3月）



周辺に生育した幼体（2015. 10月）

図3 逢坂港周辺での幹縄スポアバッグ方式によるホンダワラ増殖試験

3) フサイワスタ増殖試験

母藻の設置方法は、約20cmに切断した葡萄茎をトリカルネットで挟み、水中ボンドで天然石に固定する方法とした。9月に実施した追跡調査では母藻は消失することなく、周辺に新たな群落形成されるなど、移植後の経過は順調であった。

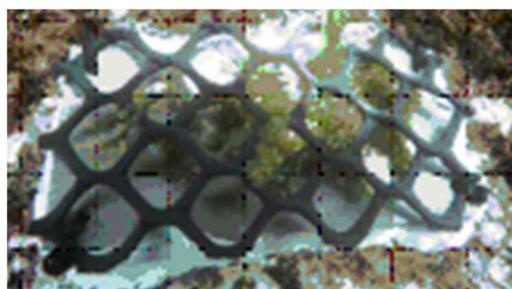


図4 トリカルネットを用いた母藻設置

4) セイヨウハバノリの漁港内養殖試験

種苗生産の基質として塩ビパイプと種糸を用いたが、いずれも採苗することが可能であった（図5）。生育に適した海水温19℃となる11月中旬に泊漁港で垂下式の養殖試験を開始した。12月中旬には、葉長20～40cmに生長し、1回目の収穫を実施した。さらに約1ヶ月後の1月下旬には再び同サイズに生長することを確認した。



種糸に採苗したもの



塩ビパイプに採苗したもの

図5 泊漁港内での垂下式養殖の実施状況（約1ヶ月後の12月中旬の状況）

3 成果の活用

県内漁業関係者に情報提供及び技術の普及を図った。